

「やってみたい」で始まる 親子の居場所づくり

東京都世田谷区
特定非営利活動法人
野沢3丁目遊び場づくりの会





のぞむテットーひろば

東京都世田谷区の東南部、目黒区との区界に位置する野沢地区に、のぞむテットーひろば（以下、テットーひろば）がある。「子どもたちにもっと自由な遊び場を」という地域住民の思いで開放された私有地を利用して、2002年4月に開園したプレーパーク（冒険遊び場）と子育て支援ひろばである。来園者から運営側へという誰もが運営に参加できるスタイルのもと、子育て現役世代からシニアまでの、世代をこえた地域住民で2010年にNPO法人を発足し運営している。

テットーひろばは幅10m×奥行50mの細長い敷地である。敷地の中央には「みどりのやね」と呼ばれる小さな家があり、室内で絵本を読んだり、お昼寝をしたりすることができ、その傍らでは親同士の賑やかな会話が絶えない。敷地の奥には土のひろばが広がり、水、土、木などの自然の素材や子どもの成長にあわせた手作り遊具などで遊べる。

禁止事項を設けないことで子どもの「やってみよう」という遊びに自由に挑戦でき、異年齢の仲間と協働していくことで、彼らの創造性や自己肯定感を高めていく。それぞれのエリアで展開する遊びが異なるだけでなく、子どもの成長にあわせて、遊びのフィールドが敷地の奥へと広がっていくことも特徴的である。

来園者主体の活動

テットーひろばには「こんなことをしてみたい」という思いをもつ人が多く集まる。アイデアは月例ミーティングで話し合いながら、講座やイベント、日常的な有志活動として実現していく。

2015年には、都会で暮らす子どもたちにお米づくりを体感してもらいたいという母の思いから「こめつ部」という有志活動が始まった。千葉県田んぼで、1年を通したお米づくりのプロセスを親子で楽しみながら、農家さんの苦労を体験した。

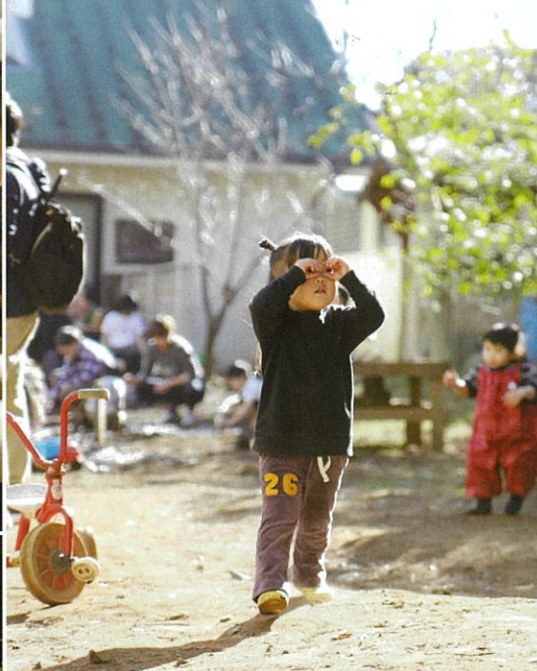
食に関する有志活動としては、自然発生的に始まった「はたけ部」もある。土のひろばの小脇で各種野菜の栽培やミニ田んぼでの米づくり、また染め遊びなどを通して、親子で土のふれあいを楽しんでいる。近年は、地域住民から苗や肥料の提供や助言を受けながら、継続的に活動している。

2018年には、父親同士で子育ての話をする機会をつくりたいという思いから「おやじ部」が発足された。月1回、仕事、家庭、夫婦、子育てに関連するテーマを設けて対話会を行っている。女性よりも自らの悩みや本音を語り合うことの少ない男性中心の場だからこそ得られる共感が、参加者の安心感や新たな気づきとなっている。

この他にも様々な例があるが、それぞれの企画者は「テットーひろばという場とそこに集う人がいたからできた」と語る。この場を自分の居場所とし、他の人たちとも共有したいという思いが多彩なアイデアを生み、継続的な活動につながっているのだと感じる。運営者と来園者が支援する・される関係性ではなく、ともに場づくりをしていく主体者であることが、テットーひろばにおける最も重要な理念と実践のひとつである。

親の居場所づくり

テットーひろばは、子どもだけでなく親にも主眼を置いた取り組みを日常的に行っている。親子関係は濃密であるがゆえに、時に息詰まることもある。わが子との距離を少し置き、間に第三の大人であるプレーリーダーやスタッフが関わることで、親自身がリフレッシュできるとともに、普段見過ごしていたわが子の長所や心身の成長について、新たな気づきを



もたらすきっかけにもなる。そのために来園者とのコミュニケーションは欠かせない。初めて遊びに来た親子と常連の親子の会話のきっかけをつくったり、子育ての悩みをお互いに共有し情報交換したりしながら、子育て当事者同士が支えあうネットワークをつくっている。

また2004年から「気まぐれテットーカフェ」を開始し、100円のコーヒー・紅茶の提供を毎日行うほか、スイーツの販売やランチの提供を週1回行うなど、親が日々の子育てからしばし解放され、ひと息つける工夫を凝らしている。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年春より休止している。

地域との連携・協働

遊び場づくりは地域の理解と支えがあってこそその活動である。テットーひろばのイベント開催時にはその都度、近隣住民宛への手紙を配布し、運営への理解を求めてきた。また、地元町内会との関係づくりは意識的に取り組み、日常の情報交換やイベントへの参加はもちろん、消防器材であるスタンバイパイプの設置場所としても提供している。

2018年、社会福祉協議会を中心に、周辺地域で活動する子育て支援団体のネットワークが発足され、テットーひろばも参画した。定期的な交流会において情報交換を図るほか、協働イベントを開催している。団体の垣根を越えて、地域ぐるみで子育てしていくまちづくりが広がっている。

2022年には開園20周年を迎える。テットーひろばのような私有地を利用した子どもの遊び場、また来園者と運営者が混ざり合い、子育て当事者同士が互いに支え合う仕組みは全国的にも稀少である。「外遊び」と「子育て」の二本柱からなり、親子それぞれの「やってみよう」ができる場所として、これからも地域とともに歩む場づくりに取り組んでいく。